

生きもの

DE

すわ

令和4年10月21日発行
文・写真・絵 生きもの集め隊 隊長 平野 邦好

すっかり秋らしくなってきましたね。今回は秋の生きもののお話を届けます。

まねをする蝶

毒蛾の幼虫のイラガにそっくりです。イラガを食べようとしてひどい目にあった鳥は、ルリタテハの幼虫を襲うことはありません。このように生きものが様々な理由で、他の生きものまねをするのを擬態といいます。

諏訪小学校のビオトープには、たくさんのユリ科のタイワンホトトギスが植わっています。この植物が幼虫の食草です。昨年10月にこの植物にたくさんのルリタテハの幼虫がいるのを見つけました。今年もいないかと探していたら、葉の裏にいる幼虫に触れてしまいました。イラガの幼虫でしたら、病院に通わなければならないところでしたが、指はなんともありませんでした。

突然ですが、ここで皆さんにクイズを出します。ルリタテハは成虫で冬を越しますが、私は寒い季節以外に成虫を見たことがありません。ずうっと不思議に思っていたのですが、なぜだと思いませんか。下の①～③の中から選んでください。

①暑い時期は、避暑のために横須賀を離れて涼しいところに行っているから。

②そもそも成虫は暑い時期にはいないから。

③姿を変えているので気がつかないから。

あなたはどれを選びましたか。私はルリタテハの幼虫を飼って成虫まで育ててみて、寒い時期以外にルリタテハの成虫を見たことがない理由が分かりました。



①



②



③



④



⑤

- ①育てたルリタテハの成虫
②2019年12月8日諏訪小花壇で撮影
③タイワンホトトギスの花
④⑤ルリタテハの幼虫



⑥の写真是飼育していたルリタテハが、羽化したときのものです。写真が逆さまなのではなく、タテハチョウの仲間は腹端を固定してぶら下がって蛹になります。(垂蛹といいます。)

写真で分かるように、ルリタテハの成虫のはね裏は樹木の皮にそっくりです。この蝶は花の蜜ではなく、樹液を吸います。寒い季節には、はねをひろげて身体の温度を上げています。しかし、暑い季節には体温が上がりすぎてしまうため、日の当たらない場所で生活し、はねは閉じています。そのために、いても気がつかないのです。正解は⑦でした。諏訪小学校の周辺にはルリタテハがすみついているようです。

トンボのアキアカネや一部の鳥には⑥のように、季節によってすみどころを変える生きものもいます。

ところで、⑥の写真を見て「あれっ。」と、思った人はいませんか。「昆虫は足が6本のはずなのに、この蝶は4本しかない。」そう気がついた人は、知識も観察力もある人です。タテハチョウの仲間は前の2本の足が短く、折りたたまれているために4本に見えるのです。実際には足は6本あるので安心してください。

秋の七草

春の七草(セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ)については、知っている人は多いと思います。では、秋の七草はどうでしょうか。私も全部を言うことができませんでした。ある植物観察会に出席したときに、講師から『お・す・き・な・ふ・く・は』と覚えてらいいですよ。」と、教えて頂きました。

「お」：オミナエシ 「す」：ススキ 「き」：キキョウ 「な」：ナデシコ 「ふ」：フジバカマ

「く」：クズ 「は」：ハギの7種類です。

諏訪小学校のビオトープに、今年度オミナエシとフジバカマを植えました。まだ植えたばかりなので、咲くのは来年以降になります。どちらの植物も小さな花が集まって咲き、秋の風情が感じられます。しかし、オミナエシを切り花にして花瓶に飾ると、とても



いやな臭いがします。野外で眺めているのが最も良い花です。オミナエシは種で増やすことができますが、フジバカマは種はできてほとんど発芽しません。株分けで増やします。写真⑦オミナエシ ⑧フジバカマ

キンモクセイ

秋の七草ではありませんが、保健室前のキンモクセイが満開です。辺り一面に良い香りが漂っています。

キンモクセイの木にはオスメスがあり、日本ではオスの木ばかりで実はなりません。



【お詫びと訂正】8号の葉山市は葉山町の誤りです。お詫びして訂正します。